

6,000万人・15兆円目標に向けた ボトルネック・課題の整理

第50回観光分科会資料
(6月20日)

ご議論いただきたい事項

- 「2030年6,000万人・15兆円」という政府目標の達成に向けて、政府一体となった施策や民間・自治体・DMO等それぞれの取組により、これまで順調に推移してきた。（2024年：約3,700万人・8兆円）
- しかし、「2030年6,000万人・15兆円」の高みを目指すために求められる「持続可能な観光地域づくり」「インバウンド地方誘客」等の取組に際し、各分野で様々なボトルネック・課題が存在するのではないか。
- まずは、これらのボトルネック・課題を横断的に洗い出し、整理することが必要。
- 本日は、事務局で整理した資料もご参照いただきつつ、目標に向けたボトルネック・課題についてご議論いただきたい。

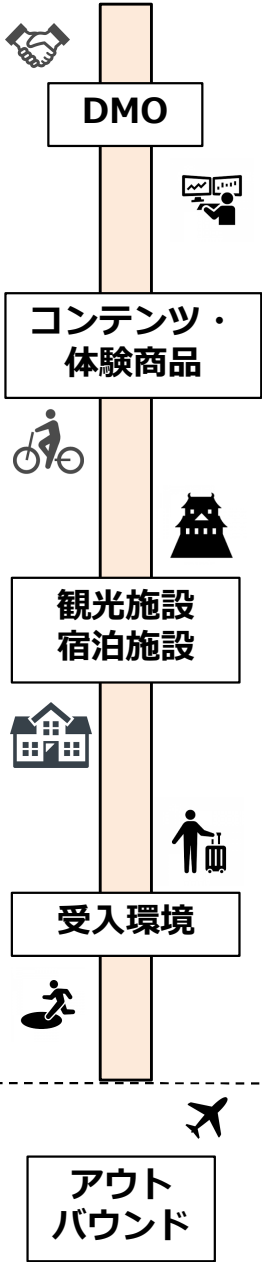
- 1. 観光分野のボトルネック**p.4
- 2. 交通分野のボトルネック**p.10
- 3. その他の分野のボトルネック**p.15

2030年6,000万人等の達成に向けたボトルネック・課題①【観光】

2030年目標や地方誘客の実現に向け、観光の各分野にはボトルネック・課題が存在するのではないか。

<観光の各分野>

<ボトルネック・課題（例）>



【DMO】

- 安定的かつ臨機応変に活用できる資金、高い専門性を持つ人材が不足
- 観光地経営戦略を実施する地域経営力が不足
- 地域の発展段階を踏まえ、DMOに対するきめ細かな支援が不十分

【コンテンツ・体験商品】

- 体験コンテンツ事業の収益性や、ローカルガイドをはじめとする必要な人材の不足などの課題

【観光地・観光産業の構造改革】

- 人手不足、生産性の低さ等の構造的課題、事業者による個別的な対策
- スポット的な取組に加え、観光まちづくりの観点から面的な取組が必要

【オーバーツーリズム、安全・安心】

- 地域課題への対応を進めているが、地域間比較が可能なデータが未整備、観光の効果に対する住民の理解を求める取組が不足
- 災害時等の情報提供や自治体との連携が不十分

【アウトバウンド】

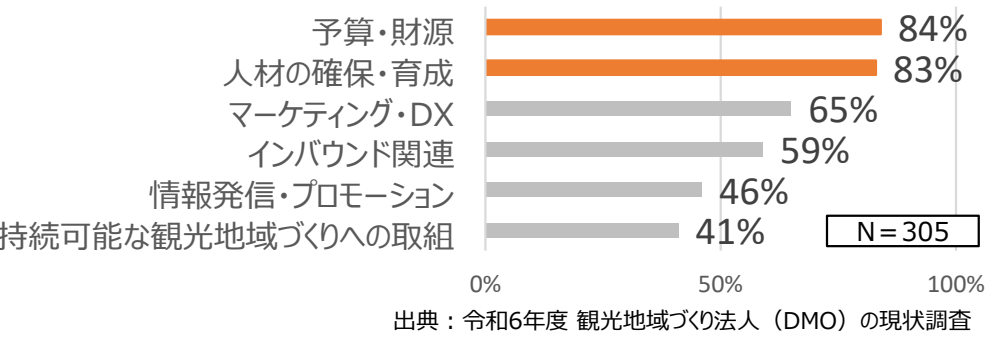
- 地方部における相互交流の低迷
- 観光産業の国内市場への偏重、アウトバウンド需要の喚起

観光地域づくり法人(DMO)をめぐるボトルネック・課題

- DMOの機能強化にもっと注力すべきではないか。(第49回観光分科会でのご意見)
- 安定的かつ臨機応変に活用できる資金、高い専門性を持つ人材が不足し、持続可能な観光地域経営が困難となっているのではないか。
- 独自に観光地経営戦略を策定するDMOが少なく、各観光地域における経営力が不足しているのではないか。
- 地域の発展段階を踏まえ、DMOに対するきめ細かな支援がなされていないのではないか。

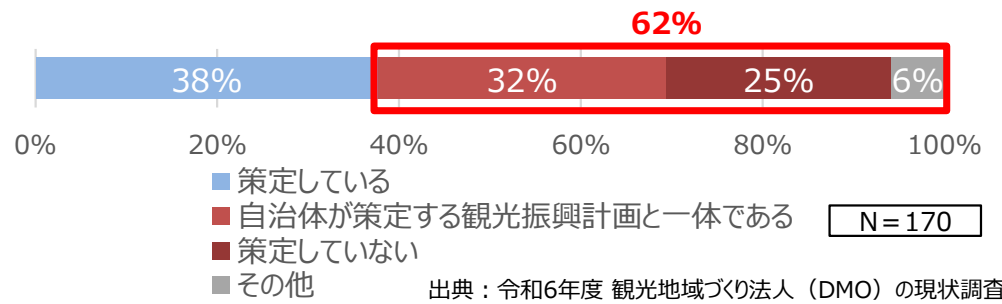
安定的な資金や高い専門性を有する人材不足

8割強のDMOが、安定的な資金や人材確保が課題と回答。



地域経営力の欠如

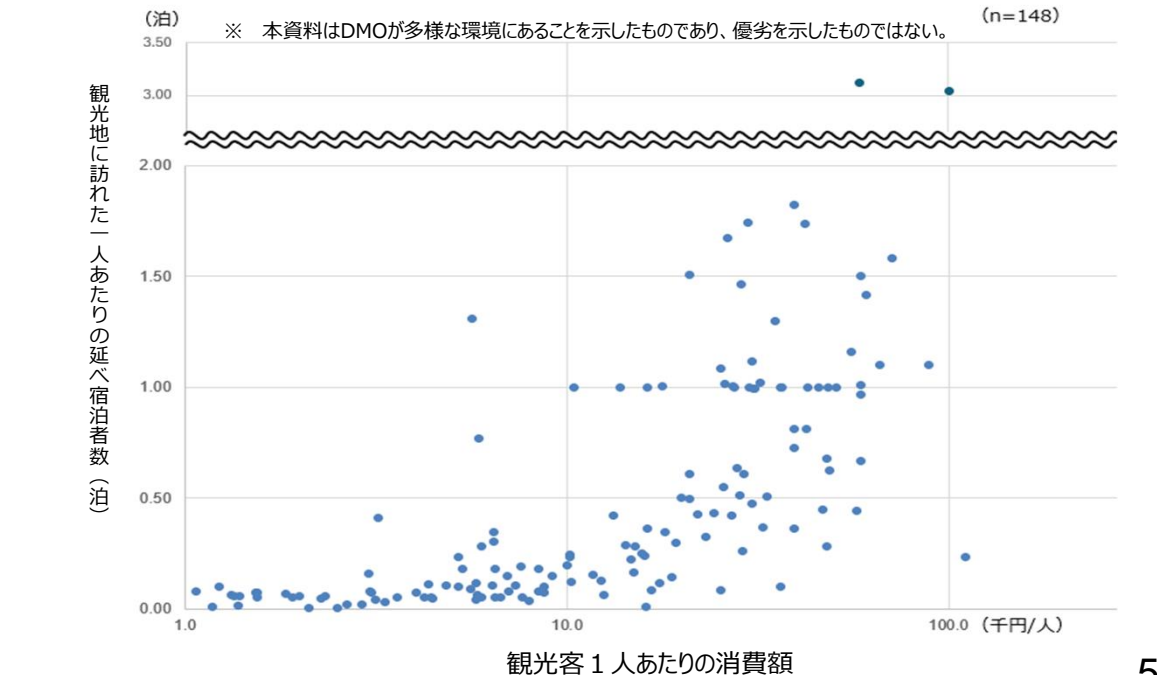
6割強のDMOが、独自の観光地経営戦略未策定と回答。



地域の発展段階に応じたDMOの観光地経営が必要

旅行商品等の高付加価値化を目指す段階、滞在期間を伸ばす段階、地域に裨益させる段階等、地域の発展段階は様々。

【登録DMOのマネジメント区域における1人あたりの「消費額」と「延べ宿泊者数」の相関】



コンテンツ・体験商品をめぐるボトルネック・課題

体験コンテンツの供給増加に伴う新たな課題として、

- 体験コンテンツ事業の低い収益性により、事業を持続的に展開するための経営的体力が創出されないのではないか。
- コンテンツを提供する上で必須となるローカルガイドをはじめとする人材の不足などが生じているのではないか。

観光コンテンツ事業者における収益性の改善

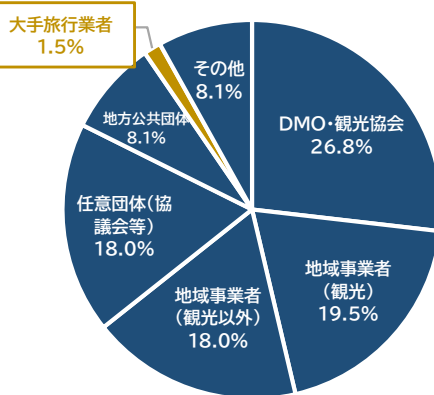
- 観光コンテンツ市場への参入は小規模の事業者も少なくなく、事業の持続可能性に懸念。特に地方誘客が十分に進まない需要の低いエリアにおいて、経営の持続性が深刻化するおそれ。
- このため、地方部の小規模事業者でも持続可能なビジネスモデルの構築や、全国各地で事業を展開する強靱な経営的体力を有する事業者の創出等が課題。

観光コンテンツ供給のために必要な人材の不足（ローカルガイド等）

体験コンテンツの提供では、地域の魅力を多言語で解説するローカルガイドが必須だが、地域からはローカルガイド不足を指摘する声が多数。コンテンツ供給量を増やす上での阻害要因となるおそれ。

観光コンテンツの造成を支援する観光庁事業における採択事業者の類別

✓ 大手旅行業者は1.5%に留まり、地域の事業者が中心



※ (R6補正) 地域観光魅力向上事業 1 次公募を元に算出

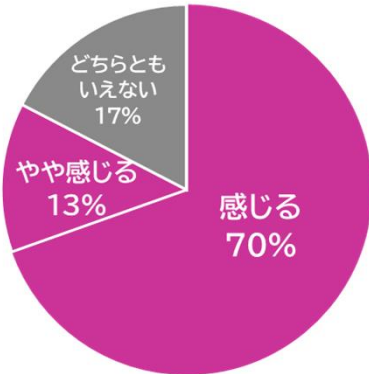
観光コンテンツ事業者の経営状況に関する有識者の指摘

- ✓ コスト構造の改善に対して事業者の意識が低く、プライシングとコストについて十分な整理がなされていないのではないかと。産業全体として基本的なところから改善しなければ持続可能な取組とはならない
- ✓ ターゲット層を絞るためのマーケティング調査やニーズ調査等を実施しておらず、戦略的な取組になっていない事業者が多いのではないかと
- ✓ 既に観光庁事業で補助を受け、コンテンツ造成したものの、十分な予約・販売に繋がらなかった場合もあると思うが、その課題や改善策がきちんと整理できていないのではないかと。天候などを言い訳にせず、それらをリスクとして捉えた上で、持続的なビジネスにしていかなければならない
- ✓ アンケートで満足度が高くても、リピートに繋がるとは限らない。アンケート調査で効果検証を行っている地域も多いと思うが、見直しが必要ではないか

観光コンテンツ事業者の収益性改善モデル構築事業・選定委員会における有識者の発言（抜粋）

観光庁「ローカルガイドに関するアンケート調査（令和 6 年）」

多言語対応可能なローカルガイドの不足を感じるか



※ インバウンド向けにローカルガイド付きの着地型旅行商品を販売するDMO47法人が回答

政府登録ガイドの登録状況（直近10年間の推移）

✓ 直近10年間で訪日外国人数は1.86倍になったのに対して、政府登録ガイドは1.45倍の増加に留まる



ガイド不足が生じる要因（アンケート調査）



（出典）観光庁「ローカルガイドに関するアンケート調査（令和 6 年）」

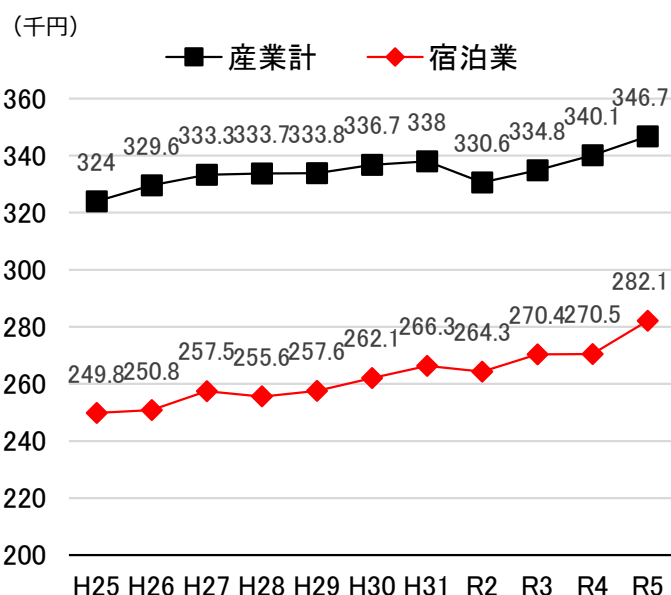
観光施設・宿泊施設をめぐるボトルネック・課題

- 他業種と比べて低い賃金となっており、労働条件を向上させるため生産性向上の取組が必要ではないか。
(第49回観光分科会でのご意見)
- 人手不足やインバウンドの受け入れ体制不足により、観光需要を取りこぼしていないか。
- 個々の宿泊施設等の魅力向上等の取組に加え、観光まちづくりの視点も含めて、地域一体で観光客を受け入れる仕組みの強化が必要ではないか。

宿泊業における低い賃金体系

宿泊業における賃金体系は、全産業と比べて低い水準で推移（きまって支給する現金給与額）

＜全産業と宿泊業における月収※の推移＞



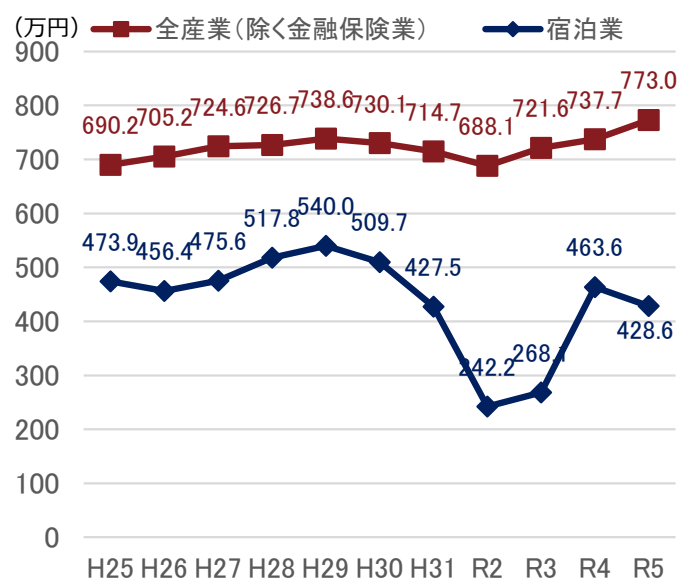
出典：厚生労働省「賃金構造基本統計調査」

※きまって支給する現金給与額

宿泊業における低い労働生産性

宿泊業の労働生産性は、全産業と比べて低い水準で推移（従業員一人当付加価値）

＜全産業と宿泊業における労働生産性※の推移＞



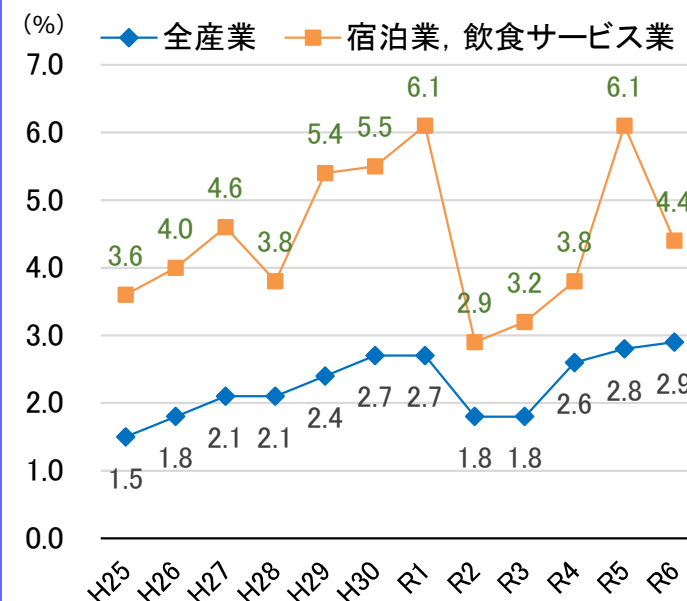
出典：財務総合政策研究所「法人企業統計調査」

※従業員一人当付加価値

宿泊業における顕著な人手不足

宿泊業における人手不足は、全産業と比べて高い水準で推移（欠員率の推移）

＜全産業と宿泊業・飲食サービス業における欠員率の推移＞



注）欠員率＝求人数÷従業員数
(各年6月末日現在の求人数・従業員数で算出)

(出典) 厚生労働省「雇用動向調査」
※全業種で9,024者が回答（R6年上半期調査）

受入環境をめぐるボトルネック・課題

- 観光客のマナー違反行為の防止・抑制や手ぶら観光を推進する取組を進めていくべきではないか。（第49回観光分科会でのご意見）
- 観光が地域経済・社会に与える恩恵を可視化し、住民の理解を得ながら受け入れを進めることが重要。（第49回観光分科会でのご意見）
- 持続可能な観光地域づくりに向けた方針・計画の策定に必要なデータの取得や分析ができていないのではないか。
- 訪日外国人観光客に対する災害情報発信ツールの普及等に課題があるのではないか。

混雑、マナー違反

- 主要観光地に向かう路線が混雑したり、大型手荷物の持ち込みにより円滑な運行に支障が生じている。
- 各地で手ぶら観光サービスの導入が進んでいるが、認知度の不足や国内各地共通のプラットフォームの未整備等が課題
- 一部の観光客によるマナー違反行為も発生し、地域住民の生活の質に影響が生じている。

<交通の混雑>

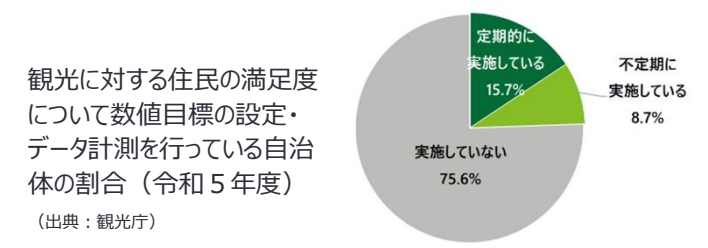
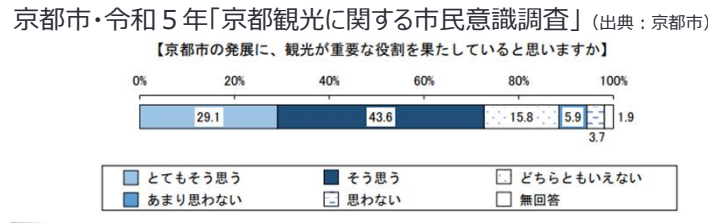
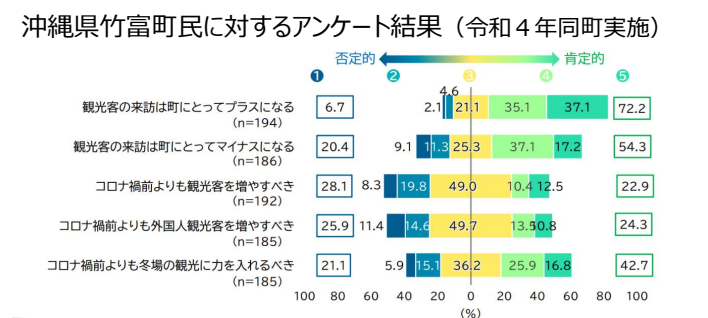


<マナー違反>



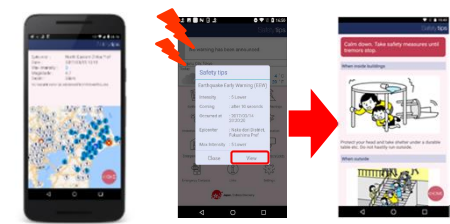
地域住民の理解を得る取組

- 観光客の受入れと地域住民の生活の質の両立を図るには、地域住民の観光に対する理解を得る必要がある。
- また、その前提として観光に対する住民の満足度等についてデータを取得することが不可欠。



災害時における情報発信等の課題

- 訪日外国人観光客数と比べて、災害時情報提供アプリ「Safety tips」のダウンロード数や日本政府観光局の発信情報（SNS等）の閲覧者数は低い水準にとどまる。
- 地域における災害時の観光客向け対応に係る計画の策定数が十分とは言えない状況。



災害時情報提供アプリ「Safety tips」



災害時、観光案内所に観光客が集まっている様子
[平成30年北海道胆振東部地震]

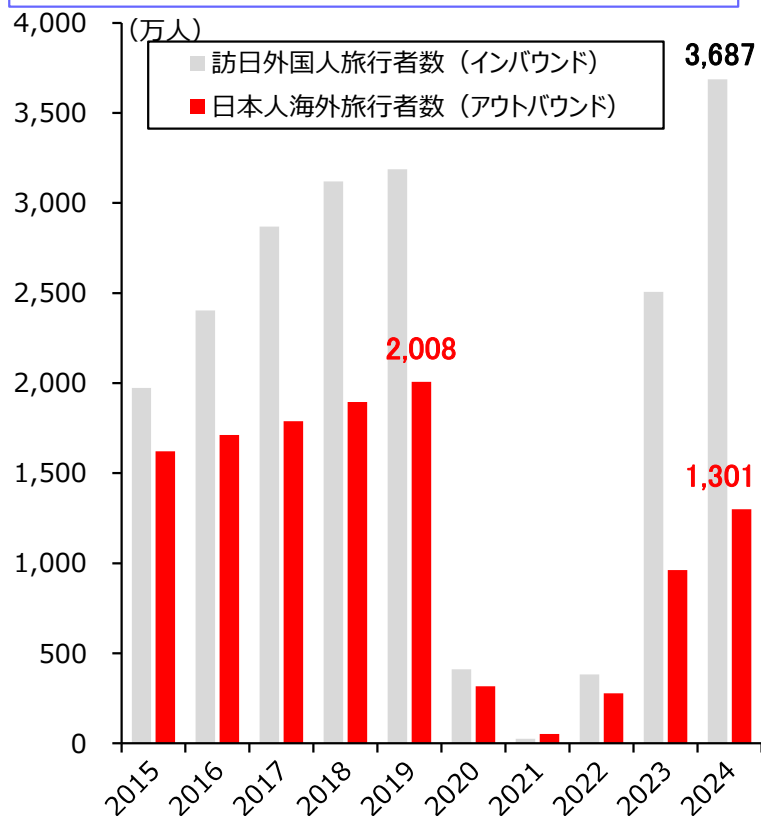
アウトバウンドをめぐるボトルネック・課題

- インバウンドとアウトバウンドのシナジー効果を生み出すべき。（第49回 観光分科会でのご意見）
- インバウンドの地方誘客にあわせて、アウトバウンドを含めた地方における相互交流の促進を行う必要があるのではないか。
- 観光産業の国内市場への偏重の解消とあわせて、更なるアウトバウンド需要の喚起を図る必要があるのではないか。

アウトバウンドの回復の遅れ

インバウンド・アウトバウンド旅行者数

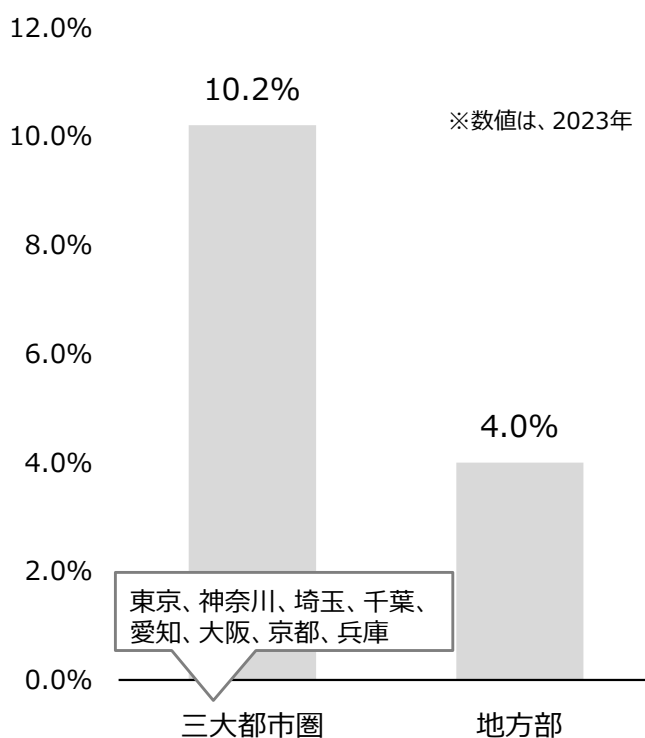
インバウンドに比して、アウトバウンドの回復が遅れている。



出典：日本政府観光局（JNTO）

日本人の出国の割合（出国者数/人口）

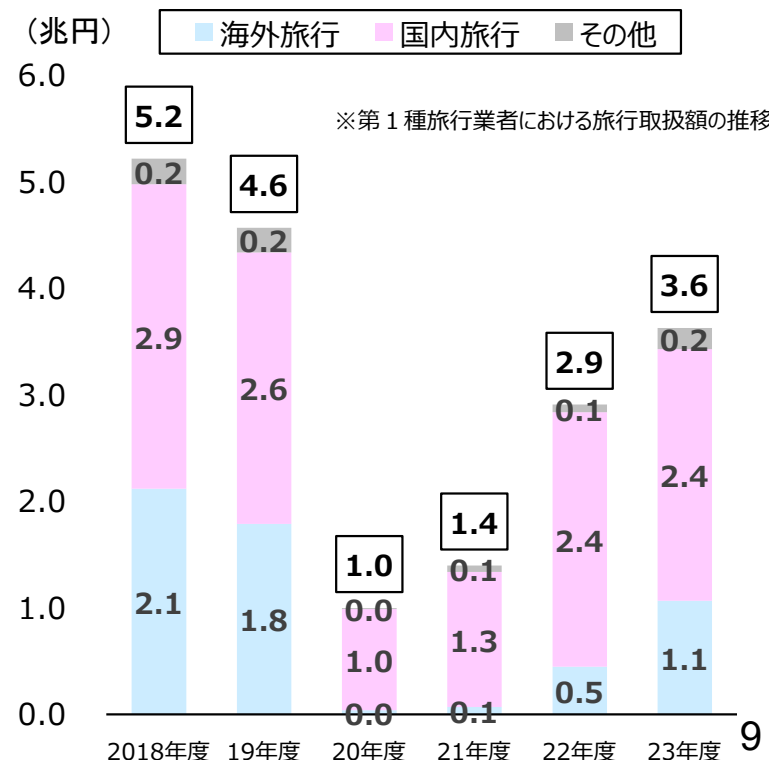
地方部における出国の割合は、三大都市圏に比べて低い。



出典：法務省「出入国在留管理統計」、総務省「人口推計」を基に観光庁作成

本邦旅行業者の旅行取扱額

アウトバウンドの取扱額は国内旅行に比して近年低水準で推移。

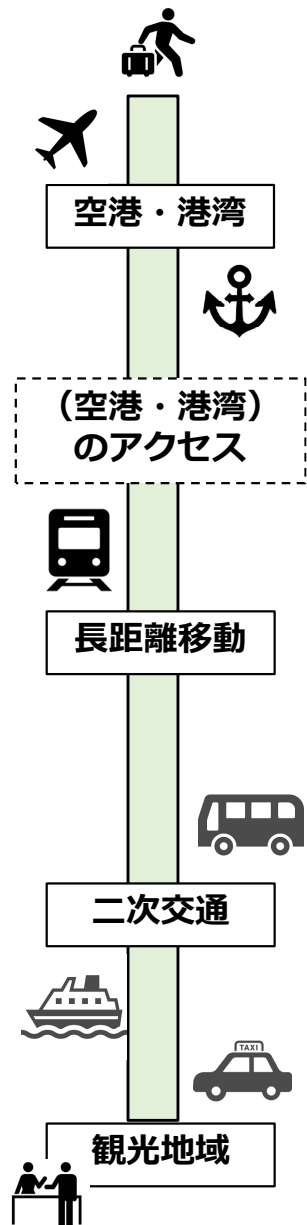


出典：観光庁「主要旅行業者旅行取扱状況年度総計」※「その他」は、外国人旅行の取扱額

2030年6,000万人等の達成に向けたボトルネック・課題②【交通】

2030年目標や地方誘客の実現に向け、インバウンドの地方への動線に関し、例えば以下の課題が存在するのではないか。

＜インバウンド客の動線＞
(入国～地方の観光地域)



＜ボトルネック・課題（例）＞

【空港】

- 空港ターミナルの混雑・搭乗手続きの円滑化
- 航空燃料の安定的な供給、グランドハンドリング等の空港業務の体制強化
(路線の新規就航・増便に課題)
- 搭乗関連手続きにおける混雑
(中部国際空港の国内線保安検査場の最大待ち時間約45分)



＜ターミナルの混雑の様子＞

【港湾】

- ターミナルの混雑、地方港湾の受入環境整備
(神戸港：下船5時間以上、福井港：新規航路の困難)

【アクセス】

- 不十分な空港アクセス
(2030年には成田空港からの座席指定特急(京成スカイライナー等)のピーク時混雑率100%(予約不可))



＜成田空港第2ビル駅ホームの混雑＞

【在来線特急等の幹線鉄道】

- 輸送安定性・速達性の不足

【地域航空】

- インバウンドの国内航空ネットワークの更なる活用

【観光の足】

- 主要交通結節点からのタクシー等二次交通サービスやわかりやすい情報発信の不足
- バス、タクシー運転者確保の困難化(有効求人倍率バス2.12倍、タクシー3.50倍)

【海事】

- インバウンド仕様の船舶や事業者の不足(移動中に景色や食事を楽しみたい等のニーズに現状未対応)
- 国内クルーズがインバウンドに未対応(インバウンド割合1%未満)

空港・空港アクセスをめぐるボトルネック・課題

- 6,000万人が来ても問題ないと言える姿を見せる必要がある。(第49回 観光分科会でのご意見)
- 空港ターミナルの混雑の解消や搭乗手続きの円滑化に向けた取組を推進することが必要ではないか。
- 空港の受入環境が6,000万人達成のボトルネックとならないよう、航空燃料の給油やグランドハンドリング等の空港業務の体制強化といった受入環境整備が必要ではないか。
- 輸送需要の増加に対応した、空港アクセスの鉄道輸送力の強化が必要ではないか。

空港ターミナルにおける混雑解消・搭乗手続きの円滑化

混雑により搭乗手続き等により長時間の待ち時間が発生



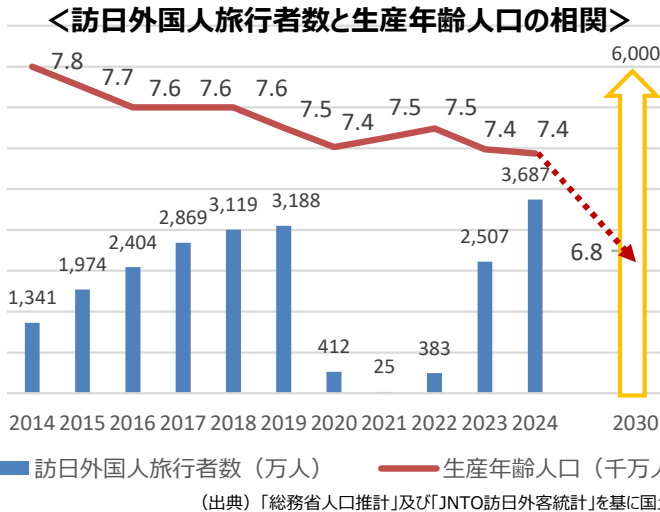
保安検査で10～30分以上の待ち時間が発生



函館空港国際線ターミナルビルの混雑

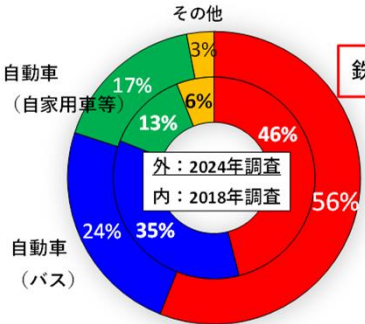
グランドハンドリング等の空港業務の体制強化

需要増大を踏まえ空港業務の人材確保・DX化等が必要



空港アクセスにおける鉄道需要の増加

空港アクセスでは鉄道利用が最も多く、需要増加に伴い、混雑が深刻化する

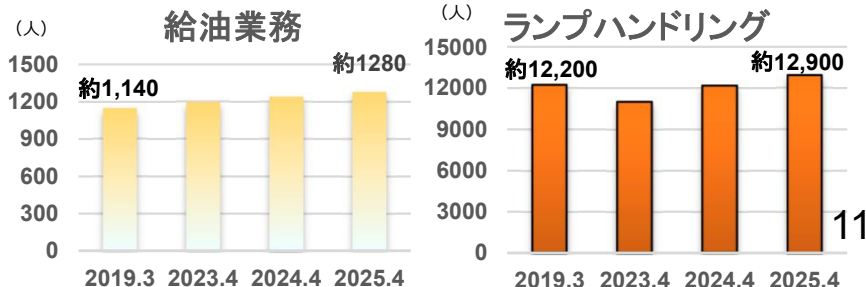


＜成田空港の出発旅客のアクセス交通機関構成比＞

(FY)		2030	2035	2040	2042
イベント		新滑走路供用		Srep1新ターミナル供用(仮)	
鉄道の混雑率 (ピークの2時間)	優等列車	スカイライナー 100%超		スカイライナー 150%超	
	混雑期	成田エクス プレス 100%超			
	通常期	スカイライナー 100%超		成田エクスプレス 100%超	
空港駅 通常期 (成田空港駅・空港第2ビル駅) (2023年度比)		駅利用者 150%超			

＜成田空港鉄道アクセスの需要予測＞

＜グランドハンドリングの体制（主要各社の従業員数推移）＞



港湾・クルーズ・旅客船をめぐるボトルネック・課題

- クルーズ船寄港の促進・定着のため、クルーズ旅客の混雑緩和や円滑かつ安全な乗下船を可能とする港湾の受入環境を整える必要があるのではないか。
- 国内クルーズは、インバウンド需要の受け皿になり得るにもかかわらず、市場として広く普及していないのではないか。
- 国内旅客船事業者の多くが、移動を楽しむ観光客ニーズへの対応不足。離島等への送客のネックになるのではないか。
- クルーズ船寄港による地方誘客が弱い。各港の観光コンテンツや受入体制の充実を図る必要があるのではないか。

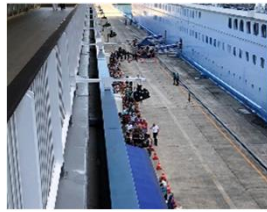
クルーズ船寄港時の混雑・安全性等低下

大型クルーズ船寄港時の混雑

クルーズ船大型化により、短時間で数千人規模の旅客の受入が発生。既設の多くの旅客上屋では受入に対応できず、混雑による長時間の待ち時間が発生。



<旅客上屋内での混雑状況>



<屋外での長蛇の列>

小型クルーズ船寄港時の安全性・利便性低下

旅客施設のない地方の貨物岸壁や離島等への小型クルーズ船の寄港が増加。炎天下や風雨の中で乗下船せざるを得ず、旅客の安全性や利便性が極めて低下。



<屋外での受入対応の様子>

国内クルーズ インバウンド未開拓

日本の文化・自然等に触れるクルーズ商品が数多く造成されているが、国内クルーズのインバウンド乗船率は1%未満。インバウンドを含む観光人口に占めるクルーズ旅客割合も低く、市場として広く普及していない。



青森ねぶた祭



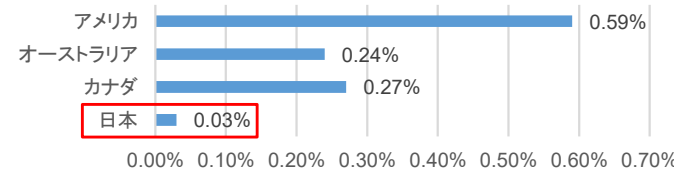
瀬戸内海の風景



阿波おどり

(出典) 郵船クルーズ㈱「飛鳥Ⅱ」、「飛鳥Ⅲ」HP

地域別観光人口※に占めるクルーズ人口の割合

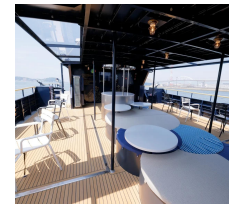


出典) 「ASIA MARKET REPORT2023」、「North American MARKET REPORT2023」、EUROPE MARKET REPORT2023」(いずれもCLIA)、「Global and regional tourism performance」(UNWTO)

※インバウンドと国内観光客の合計

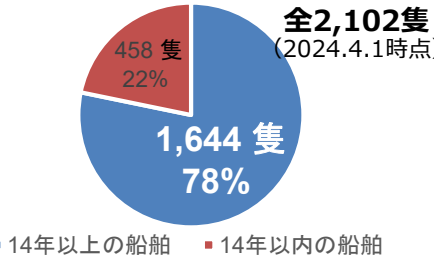
国内旅客船事業者のニーズへの対応不足

国内旅客船は老朽化が進展するなど、移動を楽しむ観光客のニーズに合わせたサービスへの対応が不足。



移動を楽しむサービスを提供する航路の事例

内航旅客船の船齢



地方寄港クルーズの不足

- 外国クルーズ船が寄港する港湾数はコロナ前の67港から2024年では97港と大幅に増加したが、2023年に寄港した13の地方港で寄港取りやめ。
- 地方のクルーズ船寄港の維持・拡大のため、地元理解の促進とともに、各港の観光コンテンツや受入体制を充実させ、安定的な寄港につなげる必要。

	寄港港数	新規寄港	寄港取止
2023年	97港		
2024年	97港	+13港	-13港

国内長距離移動をめぐるボトルネック・課題

- 地方空港の便数拡大が、地方誘客の鍵になるのではないかと（第49回 観光分科会でのご意見）
- 在来線特急等の幹線鉄道は、輸送安定性・速達性を向上させることで、観光客の地方誘客を促進できるのではないかと。
- 地方への送客において地方空港での国際線の受入強化のみならず、国内航空ネットワークの利用促進も重要であり、インバウンド地方誘客に向けた一気通貫の取組を推進することが必要ではないかと。

在来線特急等の輸送安定性・速達性向上の必要性

在来線特急などの幹線鉄道は、地方誘客の実現に大きな役割を果たすが、輸送安定性・速達性に一定の課題。

<様々な要因による運休・遅延>



倒木により
軌道上空を支障

軌道

倒木による輸送障害※の件数：**333件**
風害による輸送障害※の件数：**310件**



写真出典：令和3年2月24日付けJR北海道資料

雪害による輸送障害※の件数：**162件**

※輸送障害＝運休又は30分以上の遅延
数値は令和5年度のものと

<速達性の課題>

東京～名古屋～伊勢市 のぞみ67号（～乗継12分～）みえ9号	東京～京都 のぞみ67号
474.4 km / 3.3時間 みえ9号区間 108.4 km / 1.5時間	513.6 km / 2.2時間
表定速度 143.8 km/h みえ9号区間 73.9 km/h	表定速度 233.5 km/h

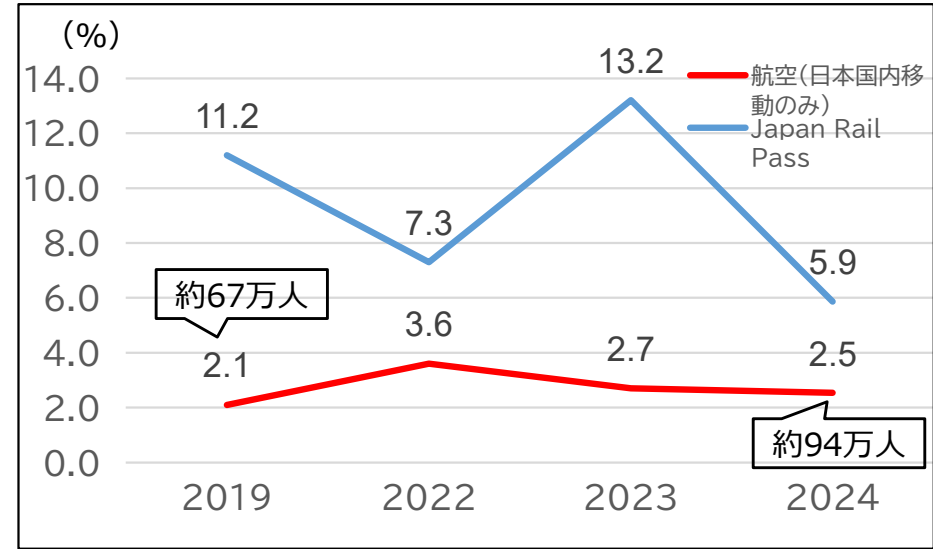
※いわゆるゴールデン・ルートから外れた観光地は、移動時間がボトルネックとなり、インバウンド観光客を取り込めていない可能性

国内航空ネットワークの利用の必要性

国内航空ネットワークの利用は、地方誘客の実現に大きな役割を果たすが、インバウンド観光客の利用率は低い状態を推移。

日本滞在中に「航空（国内移動）」を利用したインバウンド観光客は概ね2～4%程度。

<インバウンドの国内航空ネットワークの活用状況>



（出典）『観光庁「インバウンド消費動向調査」個票データ』
（注）人数＝割合×訪日外客数 で算出

二次交通をめぐるボトルネック・課題

- 観光客・地元住民の双方が公共交通機関を利用しやすくなるための施策を示す必要があるのではないか。（第49回観光分科会ご意見）
- バス、タクシー等の担い手不足等を背景とする二次交通の不足に対して、地域の輸送資源活用、人材確保、協業化による合理化などを図りつつ、自動運転等の最新技術を活用して対処していくべきではないか。
- その上で、地域住民にとっては観光需要によるサービス水準維持、観光客にとっては日本全国津々浦々の観光地を巡ることができるという好循環を目指し、二次交通を観光客・地域住民の双方が利用できるサービス内容へ再編成するとともに、インバウンドの利用可能性を確保するための情報発信等の利便性向上を推進するべきではないか。

二次交通を取り巻く課題

- ・ 人口減少、高齢化等によるバス・タクシー運転者等の担い手不足により、**乗合バス・鉄軌道路線の減便・廃止が増加**。
- ・ 地方部では、公共交通機関の利用で困った訪日外国人旅行者のうち、**二次交通（バス、新幹線以外の鉄道）の課題を挙げる割合が高い**。

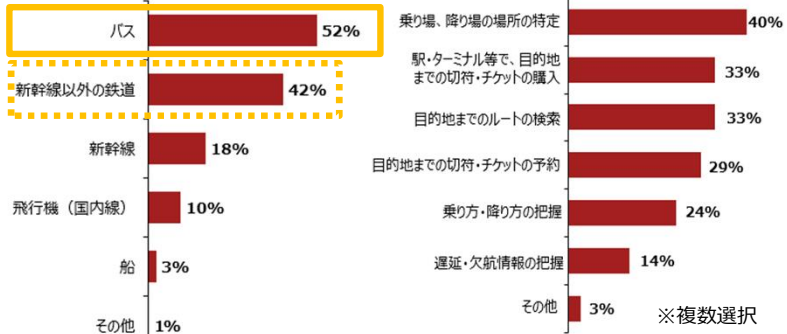
運転者の不足

休廃止路線の増加

【乗合バス】約12%減少 【鉄軌道】計625.1km、18の路線が廃止
 【タクシー】約18%減少 【乗合バス】計23,193kmの路線が廃止
 （2019年度→2023年度の対比） （2008年度→2023年度の対比）
 （出典）国土交通省物流・自動車局 （出典）国土交通省総合政策局

訪日外国人旅行者の公共交通機関の利用に関する困りごと

地方部（母数＝地方部で公共交通機関の利用で困った人数、n=184）



（出典）観光庁「令和6年度「訪日外国人旅行者の受入環境整備に関するアンケート」調査結果」

サービス提供に関する課題

令和7年2月から3月にかけて「交通空白」のリストアップ調査を行ったところ、「観光の足」については**462地点**、「地域の足」については**2,057地区**が、何らかの対応が必要とされる「交通空白」であることが判明。

観光の足

対象：主要交通結節点1,028地点

「交通空白」地点

462

うち サービス提供に課題あり **335**

+ 上記のほか、未然防止が必要な地点（要モニタリング地点）：146地点

＜主な課題＞

- ・ 多客期には混雑で訪日客が路線バスに乗りきれないこともある
- ・ 点在する観光地を周遊する交通手段が整備されていない等



観光客に混雑する様子

地域の足

回答自治体数：1,603

「交通空白」地区

2,057

＜内訳＞

Category	Count
対策実施中	548
対策準備中	854
対策検討中	655

+ 上記のほか、未然防止が必要な地区（要モニタリング地区）：1,632地区

自治体が必要としている支援策

Category	Percentage
・予算面の支援	74.0%
・体制の構築（広域調整・担い手づくり等）	38.6%
・制度に係る情報や知見の提供	51.8%
・民間の技術・サービスに係る情報	32.3%
・担当者のマンパワー不足に対する支援	40.3%
・事業者との調整にあたっての橋渡し	25.7%

「交通空白」の解消にあたり、自治体が必要としている支援策を調査票により集計

情報発信に関する課題

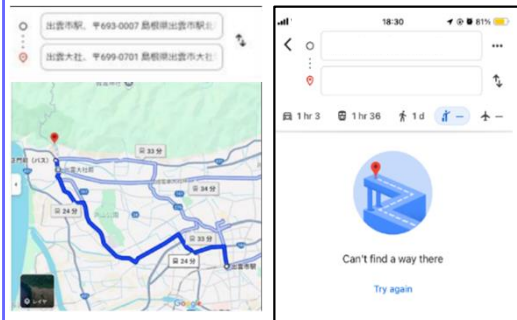
移動手段はあっても、インバウンド含む観光客向けの**わかりやすい情報発信が不十分**なことがある。

うち 情報発信に課題あり **406**

二次交通が経路検索で表示されない

（例）
 オンデマンド交通、乗合タクシー等が経路検索アプリ上で検索しても表示されないことがある

路線バスのルートが表示される例 オンデマンド交通が表示されない例



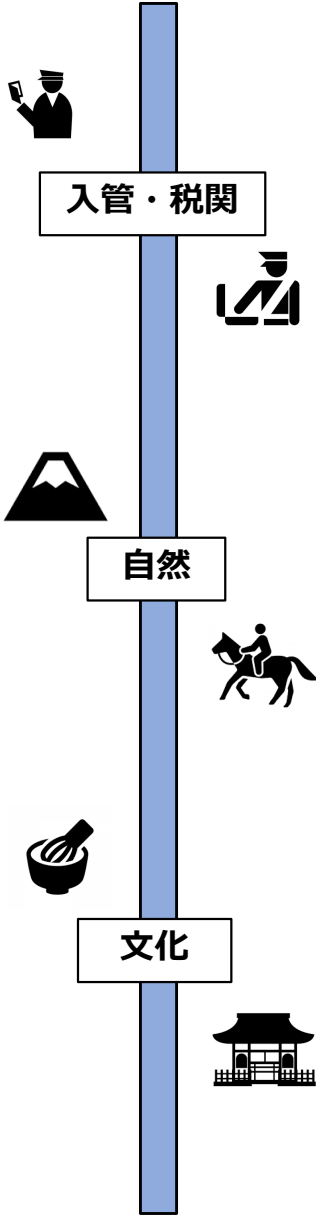
（画像出典）Google社「Googleマップ」 **14**

2030年6,000万人等の達成に向けたボトルネック・課題③【その他】

2030年目標や地方誘客の実現に向け、その他の分野でも、例えば以下のボトルネック・課題が存在するのではないか。

<その他の分野>

<ボトルネック・課題（例）>



【共通】

○各地の空港、海港における施設の不足、狭隘化

【入国手続き】

- 各地の空港等において、ピーク時に混雑が発生
- 主要空港を含め一部の上陸審査場で旅客の収容可能数が不足
- 主要空港と比較するとそれ以外の空港における体制整備が不十分

【税関手続き】

○今後の訪日外国人旅行者数の増加を見据え更なる体制整備が必要

【自然資源を活用した観光振興】

- 国立公園等では、訪日外国人客の自然景観への評価は高いが、体験・移動・滞在を支える受入環境に関するハード・ソフト両面の評価が低く、総合的な対策が不十分
- 利用集中等により自然資源が劣化し、観光資源としての魅力が低下
- 国立公園等の他にも自然共生サイト等優れた自然観光資源があり、有効活用が可能

【文化資源を活用した観光振興】

- 地方周遊促進のためには、全国各地での文化資源の掘り起こし、魅力化、活用の高度化が不十分
- 地方滞在の長期化・リピート化に向け、地域の面的整備やホンモノの文化体験の提供が不足
- 「日本博」事業が都市部に偏在しており、「海外と地方を繋ぐ」情報発信やプロモーションが不足

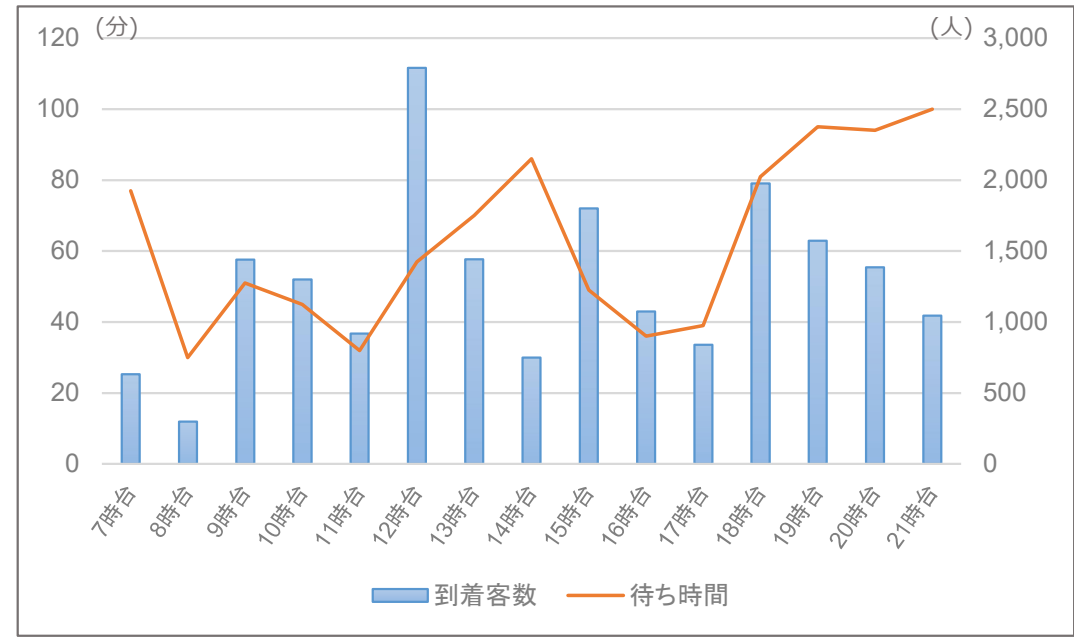
CIQ関係のボトルネック・課題

- 各地の空港等においては、ピーク時に上陸審査場で混雑が発生したり、一部の上陸審査場で旅客の収容可能数が不足しているなどの影響で、出入国審査等の際に観光客を長時間待たせてしまっているのではないか。
- 主要空港と比較すると、それ以外の空港における出入国審査体制の整備が不十分ではないか。

審査場の混雑・待ち時間の長時間化

- 航空機の到着状況によっては、到着客が相当程度集中し、出入国審査の待ち時間が長時間化している。
- 審査場の収容人数には限度があり、到着客の集中が著しい時は、到着客の動線案内や書類記載事項の事前確認の実施も困難になり、混雑に拍車がかかる要因になりうる。

(令和7年5月1日：関西空港T1北)



地方空港における審査体制の限界

地方空港では、管轄する出張所等において、出入国審査だけでなく在留審査等の業務にも従事する必要があるなど、出入国審査体制の確保に限界があるほか、出張所等から空港に審査官が移動するのに時間を要する。結果、出入国審査の待ち時間が長時間化している。

地方空港の混雑（函館空港の例）

<上陸審査場の様子>



<検疫前の様子>



※到着便は1便のみ

自然資源を活用した観光振興をめぐるボトルネック・課題

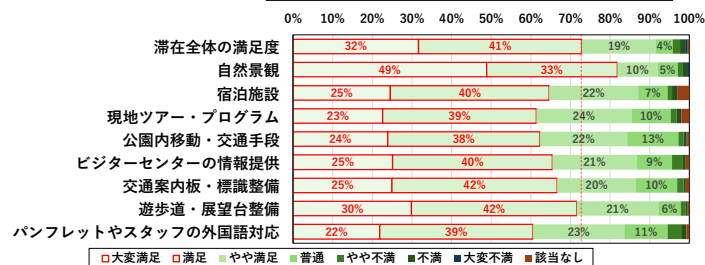
- 国立公園等では、訪日外国人客の自然景観への評価は高いが、体験・移動・滞在を支える受入環境に関するハード・ソフト両面の評価が低く、総合的な対策が不十分なのではないか。
- 利用集中等により自然資源が劣化し、観光資源としての魅力が低下しているのではないか。
- 国立公園等の他にも自然共生サイト等優れた自然観光資源があり、有効活用が可能ではないか。

体験・移動・滞在を支える 受入環境の現状

国立公園等において、体験・移動・滞在を支える受入環境が不十分で、満足度が低いといった課題がある。

国立公園を訪れた外国人WEBアンケート（満足度）

自然景観の満足度は高いものの、受入環境（体験・移動・情報提供・外国語対応等）の満足度が相対的に低く、全体的な満足度を下げている。



（2024年、500サンプル）

山岳利用を支える登山道等の荒廃等

登山道等の荒廃等、基盤的な受入環境整備が不十分であり、来訪者の安全・快適な利用に支障がある。



中部山岳国立公園の登山道

利用集中等による 観光資源としての魅力低下

観光客等の利用集中・自然資源の劣化等により、観光資源としての魅力が低下している等の課題がある。

利用集中による魅力の低下

訴求力が高い場所や繁忙期は利用が集中し、混雑、渋滞等で自然の満喫が困難となり、観光の魅力が低下する。



上高地に向かう車の混雑等により利用者の満足度が低下

訪日外国人への訴求力が高い観光資源の劣化

クビアカツヤカミキリ（特定外来生物）による桜の被害が拡大しており、国立公園等の桜の名所の喪失が懸念される。



クビアカツヤカミキリが確認された奈良県吉野町にある桜

皇居外苑の濠の水面と石垣が織りなす風格ある景観が繁殖力の強い水草の繁茂等により棄損されている。



水草が繁茂する皇居外苑の濠

自然共生サイト等 優れた自然観光資源の有効活用

自然共生サイト等優れた自然資源があり、観光への活用可能性があるが、受入体制等に課題がある。

自然共生サイト等の観光への活用に向けた課題

国立公園等の他にも、里地里山をはじめとする自然共生サイト※1やロングトレイル※2等、全国各地に優れた自然資源があり、観光にも有効活用できる可能性があるが、受入環境、担い手、情報発信の不足等ハード・ソフト両面の課題がある。

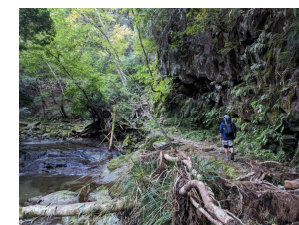
- ※1 民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域
- ※2 長く歩く道（例：長距離自然歩道）

国立公園等以外の優れた自然観光資源の例

海外から関心の高い、我が国の人と自然の共生の文化や暮らしを体験



自然共生サイト（里地里山）



ロングトレイル（東海自然歩道）
出典：（一社）トレイルブレイズ
ハイキング研究所

文化資源を活用した観光振興をめぐるボトルネック・課題

- 地方周遊促進のためには、文化資源の更なる活用や誘客の核となる拠点整備が不可欠。一方、地元を含めて、文化資源としての潜在的な価値に気付いていない場合もあり、全国各地での文化資源の掘り起こし、魅力化、活用の高度化が足りていないのではないか。
- 地方滞在の長期化・リピート化に向け、地域の面的整備やホンモノの文化体験の提供が不足しているのではないか。
- 「日本博」事業実施エリアが東京・京都・大阪に偏在しており、全国各地への展開が必要。地方の文化資源を訪日の目的にするための、「海外と地方を繋ぐ」情報発信やプロモーションが足りていないのではないか。

誘客の核となる文化資源の活用不足

観光客の地方周遊を促す誘客の核となる地域の文化資源が、観光資源として十分に活用されていない。



<重要文化財 丸亀城天守>
(香川県丸亀市)



<県無形民俗文化財 あばれ祭>
(石川県能登町)

地元住民にとっては見慣れたものであっても、外国人にとって特別な魅力が見出される場合がある。



<重要文化財 明治古都館 (京都国立博物館)>
(京都府京都市)



<特別史跡 藤原宮跡>
(奈良県橿原市)

老朽化や耐震性の問題で、十分に活用できていない文化施設も存在。

※ 明治古都館は、2015年6月から、展示会の会場としては休館中。

歴史的遺跡では、解説や演出が十分ではなく、観光客に対して価値や魅力が伝わりにくい場合がある。

文化資源の魅力・満足度不足

文化財の美観向上が不足しており、地区全体の魅力が高められていない地域もある。また、ホンモノの文化体験を求める観光客の声が多いが、観光客への提供が不足しており、満足度を高められていない場合もある。

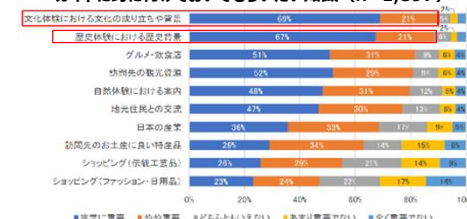


<伝統的建造物群保存地区 大内宿>
(福島県下郷町大内宿)



<木彫体験>
(富山県南砺市井波)

ガイドに身に付けておいてもらいたい知識 (n=1,897)



訪日外国人が観光ガイドに身に付けてほしい知識として、「文化体験における文化の成り立ちや背景」、「歴史体験における歴史背景」が多い。
(観光庁「ガイド人材に求められるニーズに関する調査」(令和6年度)より)

「日本博」を活用した地方の魅力発信の不足

地方の展示会、舞台芸術、芸術祭等について、更なる活用や磨き上げの余地がある。また、訪日前からの海外への情報発信が足りていない。

「日本博」事業の約5割が東京・京都・大阪で実施。
(2025年度)

博物館等は、訪日前の期待度は低いが、実際に訪問した外国人の満足度は高い。

訪日前に博物館等に期待していた外国人：25.5%
⇒ 実際に博物館等を訪問した外国人：33.5%
⇒ 博物館等を訪問して満足した割合：95.1%

(観光庁「訪日外国人の消費動向 2024年次報告書」より)